

平成 31 年度 熊本外語専門学校 自己評価・学校関係者評価結果

委員構成

| 選任区分 | 所属等 |
|---------|-----------|
| 高等学校関係者 | 元県立高等学校校長 |
| 企業関係者 | 関連企業の元役員 |
| 企業関係者 | 関連企業の元社員 |
| 卒業生 | 卒業生 |
| 保護者 | 卒業生保護者 |

第 1 回委員会：日 時 令和元年 10 月 11 日（金）10 時開催

場 所 熊本外語専門学校 603 教室

出席者 評価委員 5 名 学校側 4 名

- 1 校長挨拶
- 2 委員及び事務局紹介
- 3 学校案内ビデオ
- 4 校舎見学
- 5 学校関係者評価事業計画
- 6 自己評価概要説明
- 7 意見交換-説明についての質疑応答
- 8 その他
- 9 今後のスケジュール、
次回日程等決定



第 2 回委員会：新型コロナウイルス感染拡大防止の為、令和 2 年 3 月 27 日予定していた会議を中止し、資料を郵送し、それに基づいて評価依頼

- 1 第 1 回目資料からの変更点
- 2 次年度第 1 回目の予定

学校評価の進め方

【学校関係者評価の実施方法】

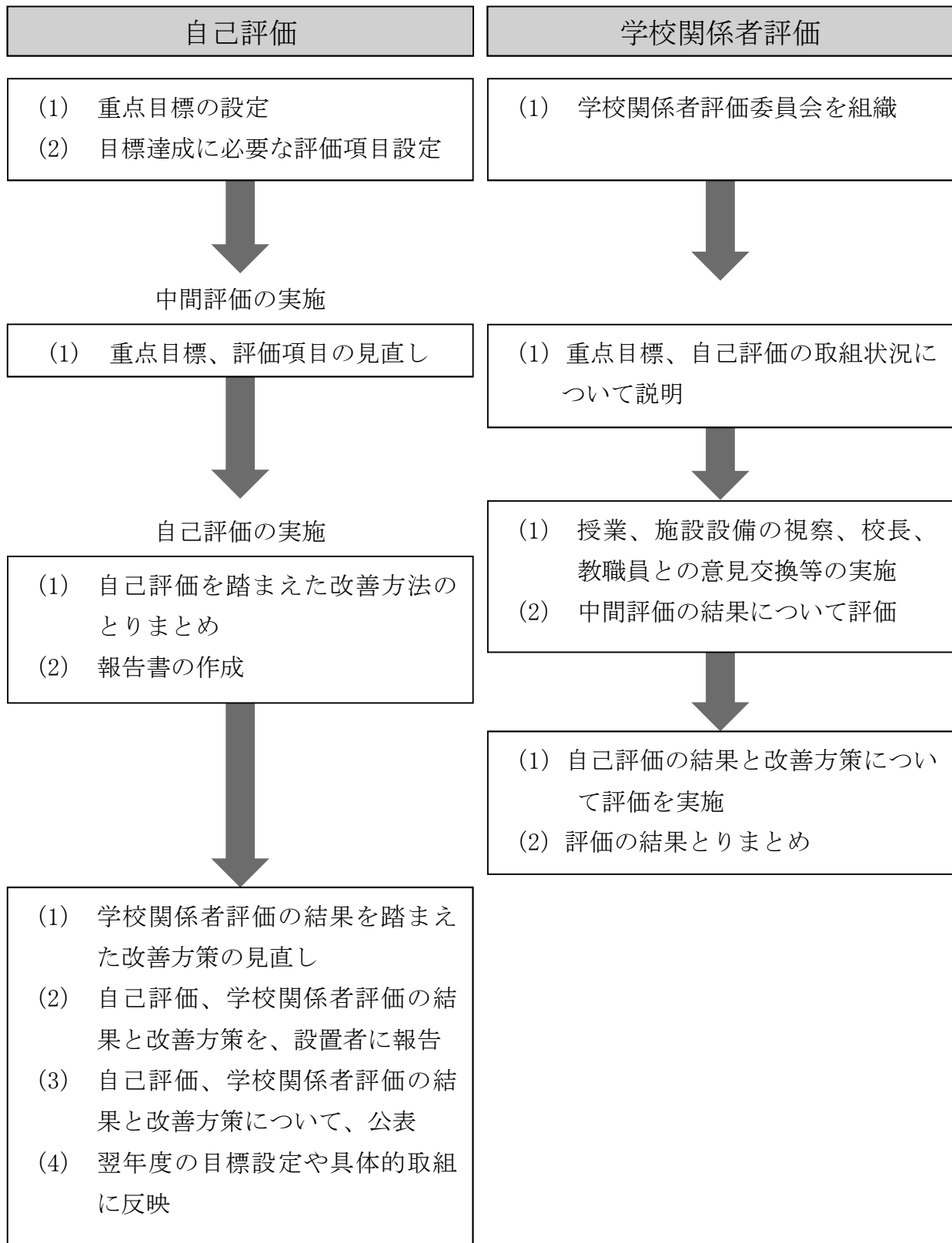
学校関係者評価の実施方法

①学校関係者委員会

学校と直接関係のある学校外の者を評価者とする学校関係者委員会を組織する。そのメンバーは、①卒業生、②保護者、③高等学校校長OB、④企業関係者、⑤企業関係者（もしくは財務専門家）の5名とする。尚、企業関係者の選定にあたっては、本校生の就職先で主に語学力を活かした職場を抱えている企業を選定する。

②学校関係者委員に、特に関わりのある重点目標、計画や自己評価、今後の取組方針などを説明し、学校見学や対話を通して教育活動、学校運営等に係る課題や今後の方向性等に助言をいただく。学校関係者委員会は、該当年度の学校が行った自己評価の結果の内容が適切かどうか、自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか、学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか、学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうかなどを評価する。

③2019年度は、9月と3月の2回実施し、9月には学校見学も行う。2020年度以降は年3回実施する（4月、9月、3月）。



1. 学校の教育目標

本校は、学校教育法に基づき学問の探求と技術の修得に情熱をもつ青少年に対し、外国語および日本語の教育を通して、常に時代の流れに対応し、国際化社会で活躍できる、有能にして礼節ある人材を養成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点目標

①語学力の向上を資格や就職進学に結び付けることをめざす。

1年次から英検、中検、TOEICなどの語学資格試験に挑戦させ、語学への積極姿勢を養う。

②出席率の向上と退学者の減少をめざす。

出席が学力向上及び生活習慣の形成につながるとの考えのもと、出席も単位取得の条件として生徒の出席を促す。また、毎年見られる退学者をいかに減らすことができるか有効な対策を考える。

③キャリア教育共済協同組合の「学生・生徒24時間共済」制度への加入

全学生を対象として学校内外で24時間体制で学生の事故や病気等に対して経済的負担の軽減をはかることができる。

平成 31 年度項目別自己評価及び、学校関係者評価は以下のような結果になりました。
この自己評価及び、学校関係者評価に基づき、全ての項目において更に高い評価を得られるよう、一層努力して参ります。

3. 学校評価（学校自己評価・学校関係者評価）

評価の基準（適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1）

| (1) 教育理念・目標 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|---|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①学校の理念・目的等が生徒、関係業界、保護者等に周知されているか | 4 (3) 2 1 | 2.4 |
| ②各科の教育目標は、業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 (3) 2 1 | 2.8 |
| [課題] ①については、生徒への周知は十分為されていると考えるが、関係業界、保護者等への周知は不足していたことは否めない。 | | |
| [今後の改善方策] ①については、生徒は勿論のこと、関係業界、保護者等への周知徹底をはかりたい。その為にはそれらの人々との接触・連絡を密にすることが必要だと考える。 | | |

| (2) 学校運営 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|--|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①学校運営は、目的に沿った運営方針、運営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか | 4 (3) 2 1 | 3.2 |
| ②情報システム等による業務の効率化が図られているか | 4 (3) 2 1 | 2.8 |
| [課題] ②については、未だ十分に効率化が達成されていなく、見直すべき点が多い。 | | |
| [今後の改善方策] ②については、具体的にどのような点の効率化が遅れているか全職員で検討し、問題点を浮きぼらせ、その上でどのように効率化が進められるか確認する。また個人情報に関するデータを多く扱うため、データ管理の意識を更に高める必要がある。 | | |

| (3) 教育活動 | 学校自己 | 学校関係者 |
|---|-----------|-------|
| 評価項目 | 評価 | 評価 |
| ①教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか | 4 (3) 2 1 | 3.6 |
| ②関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ等）が体系的に位置づけられているか | 4 (3) 2 1 | 2.2 |
| ③成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 (3) 2 1 | 3.0 |
| ④人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 (3) 2 1 | 2.8 |
| ⑤教員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 3 (2) 1 | 2.0 |
| <p>[課題]</p> <p>②についてはインターンシップ、職業体験が生徒自身の選択に任されているので、個人差が著しく生じている。⑤については学校のスタッフに十分な余裕がないために、行われていない。</p> | | |
| <p>[今後の改善方策]</p> <p>③については、これまで成績評価においてGPAを出してこなかったが、より客観性を持たせるため採り入れることにする。②については、個人差が余り出すぎないように、バランスを考えて体験させることをめざす。⑤については、今後できるだけ能力開発の為の研修等への参加ができるよう努力していく。</p> | | |

| (4) 生徒指導 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|--|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①生徒の基本的な生活習慣の確立のための取組が行われているか | 4 3 (2) 1 | 2.2 |
| ②生徒の安全管理のための取組等が行われているか | 4 (3) 2 1 | 3.0 |
| ③進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか | 4 (3) 2 1 | 2.8 |
| ④生徒・保護者からの相談体制が整備されているか | 4 (3) 2 1 | 2.4 |
| [課題] ①については、遅刻、欠席が目立つ生徒には各担任から指導はしたが顕著な改善は見られなかった。②については防災訓練を行ったが、一部緊張感の欠けた生徒がいた。④については、主に描く担任に生徒・保護者からの相談に対応してもらっているが、対応に苦慮する事案もあった。 | | / |
| [今後の改善方策] ①については、家庭との連携を強化し、指導を行う。②については、訓練により緊張感を持たせるように指導を徹底する。④については、担任だけではなく複数のスタッフでより良い対応ができるよう努める。 | | |

| (5) 特別活動 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|--|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①クラブ活動等特別活動を奨励・支援しているか | 4 3 (2) 1 | 2.0 |
| ②ボランティア活動を奨励・支援しているか | 4 3 (2) 1 | 2.0 |
| [課題] ①については、施設設備、時間的制約の観点から実施できていない。②については、奨励はしても支援できるところまでは至っていない。 | | / |
| [今後の改善方策] ①については、環境を整えば実施すべきだと考えているが、今のところ目途が立っていない。②については何らかの形で支援もできるよう努めたい。 | | |

| (6) 学修成果 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|---|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①進学率や就職率の向上は図られているか | 4 (3) 2 1 | 2.6 |
| ②資格取得率の向上が図られているか | 4 (3) 2 1 | 2.6 |
| ③退学率の低減が図られているか | 4 (3) 2 1 | 3.6 |
| ④卒業生への追跡調査を実施し、学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 3 (2) 1 | 2.0 |
| [課題] ①の進学率については、希望者は大体進学できているが第一希望に進めない生徒が相当な割合でいる。②については、できるだけ積極的に資格試験に挑戦するよう指導しているが、期待通りの結果につながらないケースも多々見られる。③については、できるだけ生徒とのコンタクトに努め、早目に退学の因となるものを除くようにしているが退学に至ってしまう場合も複数ある。④については、一部の卒業生を除き追跡調査はできていない。 | | |
| [今後の改善方策] ①については、できるだけ生徒が進学したい大学等に進めるよう学力伸長に向けて努めたい。②については、1年次から資格の有用性を認識させやる気を出させてより積極的に資格試験に挑戦するよう指導したい。③については、出席との相関関係が強く見られることから、出席に問題が生じたらできるだけ早く面談等を通して原因の把握に努めたい。④については、追跡調査の体制を整えることに努める。 | | |

| (7) 生徒支援 | 学校自己 | 学校関係者 |
|--|-----------|-------|
| 評価項目 | 評価 | 評価 |
| ①生徒に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4 (3) 2 1 | 3.4 |
| ②生徒の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 3 (2) 1 | 2.4 |
| ③保護者と適切に連携しているか | 4 (3) 2 1 | 2.8 |
| ④学力的に遅れている生徒に支援はしているか | 4 (3) 2 1 | 3.0 |
| [課題] ②については、年に1回一部学校負担でX線撮影を行っている。薬物乱用防止教育、H I V感染防止教育などは行えてない。③保護者との連携は何か問題を抱えている生徒の場合特に重要であるが十分な連携が取れていない場合がある。④については、必要に応じて個別指導も行っている。 | | |
| [今後の改善方策] ②について感染防止の観点から1人残らずX線撮影を行うことを義務づける。また薬物乱用防止教育等もできるだけ実施できるよう努める。③については、保護者と連携なしでは問題の解決は難しいのでできるだけ密にコンタクトする機会を設けたい。④については、できるだけ能力に応じた個別指導の機会を増やしたい。 | | |
| [特記事項] 英検2級取得者、TOEIC550点以上取得者、特待生入学者の授業料免除（1年次のみ）。入学後資格取得者への奨学金（1万～10万円） | | |

| (8) 教育環境 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|--|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 (3) 2 1 | 2.8 |
| ②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 (3) 2 1 | 2.6 |
| [課題] ①については、施設・設備の一部に更新を必要とするものがある。エレベーターや空調機器等である。②については、姉妹校との交流が十分できていない。 | | |
| [今後の改善方策] ①については、できるだけ早急に取り組みたい。②については、インターンシップ、海外研修等を積極的に促し、姉妹校との交流も活発化していきたい。 | | |

| (9) 生徒募集 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|--|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①生徒募集は適性に行われているか | (4) 3 2 1 | 3.8 |
| ②生徒募集活動において、資格取得・就職情報等の情報は正確に伝えられているか | 4 (3) 2 1 | 2.8 |
| [課題] ①については、生徒募集については、できるだけ効率的に、県内を中心に、高校等訪問や説明会、オープンキャンパス、インターネット等を通じて行っている。 | | |
| [今後の改善方策] オープンキャンパスに参加してもらおう高校生等にいかに弊校の魅力、特性をアピールできるか最善策を求めていく必要がある。 | | |

| (10) 財務 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|--|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか | 4 (3) 2 1 | 3.2 |
| ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 (3) 2 1 | 3.0 |
| ③財務について会計監査は適切に行われているか | 4 (3) 2 1 | 3.0 |
| ④財務情報公開の体制整備はできているか | 4 (3) 2 1 | 3.2 |
| [課題] ①については今年の収支バランスにおいて支出が収入を大幅に上まわっていることが問題である。中長期的には、収支のバランスを取るために早急の対策が必要である。④についてはインターネットでの公開は未だなされていない。 | | |
| [今後の改善方策] ①については、学生増を中心に収入の増大をはかることが必要だが、収入確保の為のその他の方法も取り入れることを検討する。④については、できるだけ早急にインターネットでの公開を実現する予定である。 | | |

| (11) 法令遵守 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|--|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①法令・専修学校設置基準等の遵守と適切な運営がなされているか | (4) 3 2 1 | 3.6 |
| ②個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか | 4 (3) 2 1 | 3.2 |
| [課題] ①については、各スタッフの良識と判断に任されているが、できるだけ誤断をおかさないようお互いにチェックし合うことも必要である。 | | |
| [今後の改善方策] ②については、データ管理等も含め個人情報の管理を更に徹底したい。 | | |

| (12) 社会・地域貢献 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|---|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか | 4 3 ② 1 | 2.2 |
| ②生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 3 ② 1 | 2.0 |
| ③地域に対する公開講座・教育訓練の委託等を積極的に実施しているか | 4 ③ 2 1 | 2.8 |
| [課題] ①については、奨励はしているが支援までには至っていない。③については公開講座は実施しているが教育訓練の受託は行っていない。 | | |
| [今後の改善方策] ②については、支援まで行えるよう努めたい。③の教育訓練も可能な限り受け入れていく方向で検討したい。公開講座は受講者を増やすべく更に努力が必要である。 | | |

| (13) 国際交流 | 学校自己 評価 | 学校関係者 評価 |
|--|------------|-------------|
| 評価項目 | | |
| ①留学生の受入・派遣について戦略を持っているか | 4 ③ 2 1 | 2.4 |
| [課題] 留学生の受け入れは行っているが、言語や文化の違いによる様々な問題が発生している。海外姉妹校への派遣がこのところ進んでいない。 | | |
| [今後の改善方策] 留学生を受け入れることは、文化・言語・考え方などの違いによって相当ストレスとなるものであるが、その難しさを超えないことには真の国際交流も国際理解も進まないだろう。要はお互いが違いを認めあった上でいかに協調、共生できるかの道を探すことが必要となる。現在アメリカモンタナ州の州立モンタナ大学及び中国の北京語言大学と姉妹提携をしているが、積極的に留学生派遣も進めたい。 | | |

I 重点目標について

1. 重点目標①について

●語学への積極姿勢を養うために、まずはモチベーションを持たせることが必要。

そのためには早い段階での進路指導により、これらの資格を就職進学にどう生かせるか、どのような資格が必要とされているかといった情報を提供し、具体的な目標を持たせることが重要だと思います。

●語学については、教材の提供と自学できる環境づくりが必要と考えます。以下のようなことが考えられる。

1. 廊下等に英語関係の資料。音声雑誌、映画などを見ることができる。
2. 学内のランと切り離れたWiFiが活用できると学生には魅力的になる。
特に、TED talksなどの有益な話題を紹介するコーナーが必要。
また、英語学習のアプリなども紹介する。
3. 資格試験のスコアを成績に反映することで意欲を高める。

●語学力の向上を資格や就職進学に結び付けることをめざす。積極性を具体的にどのように引き出しているのか。進学や就職活動、実社会でどのように必要なかを伝えきれているのか。『どのように必要なのか』を入学初期の段階で伝えることはできているのかが気になる。

●本人が目標をもって学業に取り組むことが向上に結び付く方策の一つであるので、各人の入学時レベルに合わせて資格取得のロードマップを学生と相談して作成することを組み込んだらどうでしょうか。

●就職に対して、大学生と比べると専門学生はかなりマイナスになりプラスになるには資格など取得が必要になります。2年間という短期の中で語学への積極がどれだけつくか？1人1人個人差がつき、どれだけ子供達を同レベルにもっていくかによって積極姿勢が変わってくると思います。

2. 重点目標②について

●欠席や退学のひとつの要因として、入学段階でのミスマッチもあげられると思います。入学前の段階で、志望の判断材料となる情報をできるだけ多く正確に伝えるようにすること、入学後については、やはり早い段階で学生自身が目標を見つけ、学習意欲が持続するよう、フォローしていくことが必要だと思います。

●1. 出席を学生証でチェックできるシステムの導入。2. 出席時数の厳格化。1/3 以上は不可。

●出席率の向上と退学者の減少をめざす。生徒、保護者とのコンタクト、面談を行う人的余裕があるのか。退学につながる出席率の低下に対する適切な対応を誰が行っているのか、適切に行えているのか。

●本年度の退学者が少ないと説明を受けましたが、退学が多かった年と何が違うのか深掘り検討の必要があると思います。

●退学者の減少ということは、いかに子供達の目標が見えていないのか？家庭・学校に問題という前に目標がない子供に退学をするなどというのは無理な事である。

3. 重点目標③について

●学生自身のリスク軽減、安心・安全の保障面で、この制度が有用なものであればよいと思います。

●さまざまな、保険業者からだされており、ときどき選定見直しも必要

●キャリア教育共済協同組合の「学生・生徒 24 時間共済」制度への加入

全学生を対象として学校内外で 24 時間体制で学生の事故や病気等に対して経済的負担の軽減をはかることができる。事故や病気等、保険関係に対しての重要性を学生時代から知ることは重要。可能ならば民間ででも外部からの講師を招き年数回講義を行う機会があってもよいのではないか。私自身もそうだが、実社会に出ても感覚が希薄な人間は疎いまままで過ごしてしまう可能性が十分にある。

●目標としては非常に良いと思います。

●キャリア教育共済協同組合制度、子供を守るべき事なので全学年対象すごくいい事だと思います。

II 各評価項目について

1. 教育理念、目的、人材育成像

●語学を生かした進学・就職といった目的は明確になっている。

改善案にもあるように、今後関係業界・進学先との連携を充実し、訪問等によりそれらのニーズを把握し、教育活動に反映させていくことが大切だと思います。

●・「語学資格修得には、KFLA」のイメージ確立が必要。

現在は、語学力の可視化が求められている。県内の中学は、1/3 県費、1/3 市町村、1/3 保護者負担で英語検定を受験できるようになった。大学受験には民間試験の活用もでてくる。需要の開拓が望まれる。

・個人の能力伸長を収集する。学校全体の伸びを記録していく。

●そもそもの学校の『理念』というものが分かりにくくは無いか。

・学問の探求

・技術の習得

・日本語教育

・時代の流れへの対応

を身に着けた国際化社会で活躍できる人材の育成。

以上をもって理念として、それは先生方も皆様把握しており、生徒に訪ねられれば即応えられるものなのか？

また、『業界のニーズ』とは具体的に年毎に変化するかと思うがソースは何なのか。

●1. 学校の教育目標が一般的過ぎ、漠然としていて記憶に残らないと感じます。

専門学校なのでより具体的に学生に身に付けさせること掲げたほうが印象に残ると思います。

2. 企業からすると専門学校卒業生がその領域で他の社員より抜きんでているのは当然のことですので、その他にその企業に独特のニーズについての知識を身に付けさせられれば大きなアドバンテージになると思います。

2. 学校運営

●学校運営に関しては教職員が主体的に参加できるような環境であればよいと思います。業務の効率化についても、職員が意見を出し合い、改善策について検討する時間を設けることも必要かと思います。

●・施設の改善がのぞまれる。コストはかかるが、ICT を活用した学習ソフトなどの導入もできる。教科書によっては、ネットを通じた学習を前提にするものもある。

・廊下等に英語関係の資料。音声雑誌、映画などを見ることができる。

・学内のランと切り離れた WiFi が活用できると学生には魅力的になる。携帯電話会社の WiFi スポット端末だと、電気があれば安価に導入できる。

●どのような部分で効率化が遅れているのかが把握できていれば今後改善していけばよいと思う。

もし具体的に把握が出来ていないのであれば適切ではない状態かと思う。

●①よく整備されていると思います。

②現在の業務項目を細分化して整理し、どの項目に時間を取られているか、またどの項目が IT 化等によって効率化できるかを検討するのも策かと思います。

③ただこの種の業務は、半分専任の責任者が割り当てられないと業務が進まないのは一般の企業でも同じです。

●生徒の個人情報を管理して、1人1人のデータを効率アップに全職員で確認して欲しい。

3. 教育活動

●語学を軸に専門的な資格・知識の習得を目指した科目もあり、それぞれの目的に応じたカリキュラムが組まれている。

インターンシップについては職業理解を進めるうえでも有意義なもので、企業に対して学校をアピールする機会にもなると思います。実施に際して学校側の問題（労力、受け入れ先の確保等）はあるのでしょうか。

経験した学生をヒアリングし、メリット・デメリットを明らかにしたうえで、メリットが大きいようであれば、就職希望者全員の参加を積極的に推奨されてもいいのではないかと思います。

●・大学では、インターンシップを契機に、企業との連携ができています。（コンソーシアム）。就活の一環として、何らかのプログラムを作るべきではないか。

・就職の際は、SPI 試験が増えているので、常識問題なども学べる必要があります。

●①教育理念が周知されていることが第一。教師、生徒が周知していればおのずとそれに沿った教育が策定されているはず。

②全体の何%がインターンに参加すべきか数値が無い為判定が難しい。

③成績の判定基準は生徒にも開示されるのか？開示されない場合は基準に近いアドバイスを担当から伝えられているのか。

④学校、各教員の教育方針について深く知らない為判断がつかない。

⑤研修が十分ではない場合は運営に当たる人的な不足があるのではないのか。

●実践的な職業教育については体系的な位置づけの説明が頭に残っていないので評価2にしました。

授業についていけない学生へは特別カリキュラムを実施しているとの説明を受けました。このカリキュラムも明文化してシステムに組み込んだらよいと思います。

●教員の研修等など、参加できるように努力してほしい。

4. 生徒指導等

●まずは日頃より学生とのコミュニケーションをとり、信頼関係ができていることが大切であると思います。

問題がある生徒については、必要に応じて保護者への連絡、面談等も必要かと思いますが、基本的な生活習慣の確立のための取り組みを学校側がどこまで担っていくのか難しい面もあるのではないのでしょうか。

●・スタッフの問題もあるが、アドバイザー制度などの導入も必要ではないか。

バイトの時間なども、指導必要に思う。

・学生の学内滞留時間増加の工夫。

●全体にかかる部分で、まずもって人的に余裕がないのではないのか。

生活習慣、安全管理、進学就職指導、保護者への相談体制など、各クラス担任、その他サポート職員など内部職員で十分に対応できる体制が維持されているのか。

・在学中の防災訓練の記憶が薄い

・生活習慣や進学、就職指導などは希望者が受けられるものなのか

・保護者からも相談の希望があった場合のみ対応するのか

など。

●基本的な生活習慣

守れない理由として、目標意識が薄い、授業についていけないので面白くないことが多いと推測されます。対策案です

(1) 語学の成長ステップを理解させる

語学は学んでも短期的には成長しているという実感を持っていないので、自分には能力がないと思いがちです。誰もすぐには上達しないということを教えて安心させることが必要だと思います。また成長ステップを細分化して、上達していることを実感できるようにできないのでしょうか。

●防災訓練は、子供達には緊張感が見えないかもしれないが、するとしないとではかなり違うと思います。熊本地震を経験している子供達だからこそ訓練をしなければいけないのです。

5. 特別活動

●クラブ活動については、まず学生からのニーズがあるのかどうかを考慮する必要があります。

ボランティアについては、やはり語学を生かした活動を個人レベルからでも推奨されていかれてはどうでしょうか。例えば熊本でのスポーツ国際大会での語学ボランティアなどがあり、そういった情報を収集し、学生に提供していくなどの取り組みを検討されてもいいのではないかと思います。

●熊本のさまざまなボランティア活動の紹介と参加が考えられる。

いいくに会、ホームレスへのおにぎりづくり、みずあかりなど

●学校主催、主導による活動は割り切ってよいのではないか。

地域のボランティア活動への参加や、有志を募っての近隣のごみ拾いなども立派なボランティアになりうるのでは。

また学校外との連携はどうか。

他専門学校、短大や大学のサークルや団体などの情報を校内に発信し、参加を促す事で、郊外活動の機会を得ることが出来、それをもとに趣味やボランティア活動、進学、就職への影響を与える事は出来ないのか。

●ボランティア活動

企業が行っている活動に参加することを検討したらどうでしょうか。特に就職に関係する会社であればいろんな相互コミュニケーションも図れると思います。

●ボランティア活動を経験していない子供達は、いざ就職してボランティア参加をしません。お金がで出ないとしない！！もっと学生生活にいろんな事にチャレンジしてほしい。

6. 学修成果

●進学・就職に関しては、希望先の学校・企業の情報収集、個別の試験対策などを強化していくことも必要かと思います。

卒業生への追跡調査は進学・就職先の実態を把握する上で重要であり、離職率や離職理由等の情報を収集することで、在校生への進路指導にも生かしていくことができるので、今後実施されるようになればよいと思います。

●回収率に課題はあるもののミスマッチを防ぐためにも卒業生および企業への調査は必要と考えます。

●進学率、資格などの課題について、学校側として問題なければよいのではないか。前年比や目標数値などが無い為判断しにくい。

退学に対しての処置に関しては、社員での対応が難しい場合は外部スタッフを招くことも必要ではないのか。

追跡調査とは具体的にはインタビューの類になるのか。ある分野に進んだ様々な世代の卒業生にコンタクトを取り講義やアドバイスをしてもらい機会を作ることも有効ではないのか。

●①進学

大学への編入は上達への大きなモチベーションですので目標の一つとして推進するべきだと思います。

②退学率については基本的な生活習慣の項と同じです。

●2年間という短い期間の学生生活なので、もっと1年次から資格試験に取り組みさせる。

7. 生徒支援

●経済的な支援については授業料免除や奨学金制度の設定、公的支援も活用されており、体制が整っていると思います。

保護者との連携については、学校と保護者との接触の機会がどの程度なのかがわかりませんが、毎月1回の保護者宛の文書の送付はよい取り組みだと思います。また外国人留学生に対する支援体制についての現状はどうなっているのでしょうか。

学習面以外にも生活面等、より細かな指導が求められると思います。学生同士の交流を促進することも留学生の支援につながっていくのではないのでしょうか。

●なによりも、アドバイザー的な助言ができる人の配置が望まれる。

●特待生や資格奨学金の制度は生徒のモチベーションを上げるためにも良い制度だと思う。

HIV や薬物に関しては中途半端な教育(資料動画を見せる等)ではあまり効果が得られないと思う。専門の機関や講師を招きある程度の覚悟をもって行う必要がある。社会に出てからは学ぶ機会も少なくなるため。個人的にHIVの検査を行ったとき他人事が自分事に切り替わった経験がある。

保護者との連携については密にコンタクトを行う機会も必要だが気軽にコンタクトをとる、コンタクトを取りやすい環境の整備も必要では。例えば学校のLINE等を作り、生徒、保護者ともに気軽に相談できるような制度を作るなど。ただしその場合担当の業務負担が増えることになる。

意欲があるが学力的に遅れている場合には個別指導が必要だと思うが教師側の負担も増えることになる。誰がどのように行うのか。また意欲が無い生徒の学業の遅れに対しては別のアプローチでの指導が必要になることになり現状では対応に苦慮しそうだ。

●③保護者との連絡

基準を設定して、ある基準になったら保護者と連携した対応を取るとする決まりを設ける。

④学力的に遅れている生徒

遅れの基準を設けて、その基準になったら特別カリキュラムをうけさせるシステムにする。

●今、薬物乱防止、HIV 感染防止の教育多発しています。是非学校で教育指導お願いしたいです。

8. 教育環境

●海外姉妹校への留学は学校の魅力のひとつでもあり、この先実績を増やしていくことが望ましいと思いますが、近年増加しているアジアへの留学も安くて近いというメリットもあり、学生の要望に応じたサポートが必要になってくるかと思っています。

●・学内のランと切り離れた WiFi が活用できると学生には魅力的になる。

携帯電話会社の WiFi スポット端末だと、電気があれば安価に導入できる。

・各階のスペースを活かした英語への意識づけ。

崇城大学のシルクには、映画が壁一面に置いてあります。ルーテルでも3年前から少しずつ揃えています。DVDなどは英語の字幕も選べますので、有益だと思います。

●設備のハード面に関しては、更新をするに伴い経費が発生するため安全や健康に問題が無い場合はある程度は割り切ってもよいと思う。

学校外の実習やインターンシップ、海外研修なども大切だと思うが、学校内にも様々な年齢、人種がいるはずなのに交流の場が少ないのは勿体ない気がする。日本語科の生徒に話を聞いたが、日本人の生徒との交流が全くないとの事。私が在籍していた時代ならば考えられないことだと感じた。折角校内に異文化を学ぼうという意欲がある生徒がいるのに校内でさえ交流が出来ていないことに驚いた。学校が力を入れる言語ではない為積極的な交流をさせる必要が無いのかもしれないが異なった文化を学ぶ絶好の機会にもなりえると思う。また校内で異文化との交流が出来るという部分は日本人生徒、外国人生徒の両方にとっても魅力の一つになるのではないのか。

余談ですが、我々の時代は喫煙室が生徒交流の場になっていました。時代が変わったため喫煙室の撤廃には賛成ですが、交流の場所がなくなってしまったのは残念。年齢、クラス、人種問わない交流を促せる場所が校内にあると生徒にとって学校の魅力にもつながるのではないか。例えば Wi-Fi がある場所がある、など。

●学校に姉妹校がせっかくあるのに、何の交流さえあっていない？もっと海外研修 etc をおこなって姉妹校など交流の場を発化してほしい。

9. 生徒募集

●進路を選択するうえで大きな指標となる、進学先・就職先といった卒業後の進路に関する情報を、高校生や高校の進路指導担当者に具体的に伝えていくことが重要だと思います。またPRポイントとして、他の語学専門学校にはないオリジナリティがあるとよいと思います。

●・路線バスや市電内での宣伝（高校生、大学生対象）など、必ず耳にするメディアでの宣伝をはかる。

・外から眺めて、広い窓や壁面に何らかの掲示ができないかと思いました。とにかく、場所がいいので、対面のバスターミナルから見えるような英語の行事を紹介する広告も面白いと思います。

●説明会、オープンキャンパス等とともにテレビCM等を流していることも安心感につながる生徒募集活動の一つだと思う。

進学を希望する生徒のニーズをすくい上げ魅力、特性を更新、改善してもらいたい。

現在の学校側が考える他の専門学校にはない魅力、特性は何なのか知りたい。

●具体的な成果を示すことが一番応募者を引き付けるので、入学直後と卒業時の語学能力の比較を示すことも方策だと思います。

●高校に募集をかける際に、（高校）卒業生徒のアピールをして大学先、就職などの！！そういうので募集をかけて興味を持たせる。

10. 財務

●生徒の募集が好調ということで収入の部分は問題ないのでは。

プラスαとして学校の立地の良さを生かした施設の運用なども検討して良いのではないかと。教室の時間貸しなどはどの程度の利用者がいるのか収入が出ているのか気になる。

●AI の進展に伴って自動通訳技術が大きく進歩してきており、素人の目からは外語専門学校の役割の見直しも必要になっているのではないかと思います。それらの技術の利用、共存、またその弱みを補足する教育を検討することも必要であると思います。

1 1. 法令遵守

- 職員全体で確認する機会を定期的に設けるなど、意識の低下を防ぐ取り組みも必要になってくると思います。
- 申し分ないと思います。
- 法令順守に伴う簡単な制度があれば各スタッフ同士での互いのチェックもしやすくなるのではないかと

12. 社会・地域貢献

●やはり語学を生かした社会貢献、ボランティア活動を促進していくことだと思います。例えば、学校に近い国際交流会館との何らかの交流（イベント参加など）の実現は難しいでしょうか。

公開講座については現在の利用状況はどうなっているのでしょうか。

●英語関係や異文化関係の公開講座などを開催することで、社会的な認知に繋ぐことも必要と思います。

●無料奉仕の社会貢献もあるが、多少費用が発生しても地域の為になればそれは貢献になると思うので、多少の費用をかけて施設に手を加えても良いのではないかな。

Wi-Fi 環境を整えたり、コワーキングスペースとして使える施設を作る、など。

ボランティアに関しては、積極的で具体的な情報の提供などが必要ではないか。

強制されるものではないが、興味がある生徒の背中を押してあげるような取り組みが出来ればよい。

施設活動や公開講座もそうだがまずは気軽に利用、参加できることを知ってもらうことから始めるべきだと思う。ターゲットはどこなのか。

●公開講座受講生を増やす必要がある。

13. 国際交流

●生徒支援の項目とも重複しますが、学生同士の交流を促進することも留学生への支援のひとつになるかと思います。

学習面以外に生活面、進路等、学生生活全般にわたる指導、支援体制を充実させることが、受け入れの増加につながっていくのではないかと思います。

●留学生への日本語指導は、待ったなしの取り組みが必要です。福岡県では、外国人のこども対応の先生を10名以上雇用しています。熊本でも外国人の就労が増えており、企業や農業団体との連携を図れないものでしょうか。

●・国際交流に関しては校内での交流が出来ていない状態で海外に出て交流することが出来るのか気になる。

海外姉妹校への留学は異文化に飛び込み語学にも集中できる環境になるため、大変良い経験になると思うが費用が大きくかかる為残念ながら誰にでも参加できるものではない。国内、校内でも国際交流が出来るよう生徒たちに促したり機会を作ることはできないのか。費用をかけなくても出来る国際交流の方法を提案してあげることは出来ないのか。そもそもの生徒の意欲が必要だが。

・留学生の受け入れに関しては、日本の一般的な若者との交流やアルバイトなども含めた日常生活が出来ることが可能ならばそれは留学生の募集、受け入れを行う場合の大きな学校の特色になるのではないか。

・校内の日本人生徒と日本語科の生徒との交流の機会は双方にメリットがあると思うのだがやはり問題があるのか。

●いろんな地域に留学されていますが、語学力を上昇させるという観点からはどこが推奨されるのでしょうか。

留学前と後でどれだけ語学力が上達したかを測れる物差しを作って結果を示せば留学希望者を増やせるのではないかと思います。

語学力上達以外にも留学で得られることは多いので、留学経験者の声を集めて学生に示すのもよいと思います。

●留学生の受入、派遣をもっと取り組んで欲しい。姉妹校（アメリカ・中国 etc）